

01 FRI	元旦	▲冬季休業(1月9日まで)
02 SAT		
03 SUN		
04 MON		
05 TUE		
06 WED		
07 THU		
08 FRI	■一般試験・前期(兼特待生選考試験)	
	願書受付開始(1月25日まで)	
	※一般試験実施学部	
	工学部専修課程航空整備士養成コース除く全学部	
	※特待生選考試験実施学部	
	芸術学部と宇宙航空システム工学科専修課程除く全学部	
	■専願前期試験願書受付開始(1月25日まで)	
	※実施学部/工学部専修課程航空整備士養成コース	
	■大学入試センター試験利用試験・前期	
	願書受付開始(2月1日まで)	
	※実施学部/宇宙航空システム工学科専修課程除く全学部	
09 SAT		
10 SUN		
11 MON	成人の日	
12 TUE		
13 WED		
14 THU		
15 FRI		
16 SAT		
17 SUN		
18 MON	■就職ガイダンス(芸術学部)	
19 TUE	■就職ガイダンス(工学部・情報学部・生物生命学部)	
20 WED	■就職ガイダンス(工学部・情報学部・生物生命学部)	
21 THU		
22 FRI		
23 SAT		
24 SUN		
25 MON	■一般常識テスト(芸術学部)	
26 TUE	■一般常識テスト(工学部・情報学部・生物生命学部)	
27 WED		
28 THU		
29 FRI		
30 SAT	■一般試験・前期試験1日目	
	■専願試験・前期試験	
	(工学部専修課程航空整備士養成コース)	
31 SUN	■一般試験・前期試験2日目	

2 FEBRUARY	
01 MON	
02 TUE	
03 WED	
04 THU	■後期定期試験(2月13日まで)
05 FRI	
06 SAT	
07 SUN	
08 MON	■自己推薦試験後期願書受付開始(2月22日まで)
	(工学部・情報学部・生物生命学部)
	※宇宙航空システム工学科専修課程除く
	■自己推薦試験願書受付開始(2月22日まで)
	(芸術学部)
09 TUE	
10 WED	■一般試験・前期合格発表(薬学部除く)
	■大学入試センター試験利用試験・前期合格発表(薬学部除く)
	建国記念の日
11 THU	
12 FRI	■一般試験・前期合格発表(薬学部)
	■大学入試センター試験利用試験・前期合格発表(薬学部)
13 SAT	
14 SUN	
15 MON	■一般試験・後期願書受付開始(3月10日まで)
	(工学部・情報学部・生物生命学部・芸術学部・薬学部)
	■専願試験後期願書受付開始(3月10日まで)
	(工学部専修課程航空整備士養成コース)
	■大学入試センター試験利用試験・中期
	願書受付開始(3月11日まで)
	(工学部・情報学部・生物生命学部・芸術学部)
	※宇宙航空システム工学科専修課程除く
	■大学入試センター試験利用試験・後期
	願書受付開始(3月11日まで)
	(薬学部)
16 TUE	
17 WED	■合同企業説明会
18 THU	■合同企業説明会
19 FRI	
20 SAT	
21 SUN	
22 MON	■エントリーシート・履歴書書き方講習会・
	面接等個別指導強化週間(2月26日まで)
23 TUE	
24 WED	■芸術学部卒業制作展(2月28日まで)
25 THU	
26 FRI	
27 SAT	
28 SUN	

3 MARCH	
01 MON	■芸術学部海外研修旅行(3月9日まで)
	■エントリーシート・履歴書書き方講習会・
	面接等個別指導強化週間(3月5日まで)
02 TUE	■自己推薦試験後期試験
	(工学部・情報学部・生物生命学部)
	■自己推薦試験(芸術学部)
	■芸術学部卒業制作展(福岡)(3月7日まで)
03 WED	
04 THU	
05 FRI	■自己推薦試験後期合格発表
	(工学部・情報学部・生物生命学部)
	■自己推薦試験合格発表(芸術学部)
06 SAT	
07 SUN	
08 MON	
09 TUE	
10 WED	■大学院修了式
11 THU	
12 FRI	
13 SAT	
14 SUN	■一般試験・後期試験
	(工学部・情報学部・生物生命学部・芸術学部・薬学部)
	■専願試験・後期試験(工学部専修課程航空整備士養成コース)
15 MON	■卒業式
	■大学入試センター試験利用試験後期
	願書受付開始(3月23日まで)
	(工学部・情報学部・生物生命学部・芸術学部)
	※宇宙航空システム工学科専修課程除く
16 TUE	
17 WED	
18 THU	
19 FRI	■一般試験・後期合格発表
	(工学部・情報学部・生物生命学部・芸術学部・薬学部)
	■専願試験・後期合格発表(工学部専修課程航空整備士養成コース)
	■大学入試センター試験利用試験・中期合格発表
	(工学部・情報学部・生物生命学部・芸術学部)
	■大学入試センター試験利用試験・後期(薬学部)合格発表
20 SAT	
21 SUN	春分の日
22 MON	振替休日
23 TUE	
24 WED	
25 THU	
26 FRI	
27 SAT	■大学入試センター試験利用試験・後期合格発表
	(工学部・情報学部・生物生命学部・芸術学部)
	※宇宙航空システム工学科専修課程除く
28 SUN	
29 MON	
30 TUE	
31 WED	



UNIVERSITY INFORMATION MAGAZINE

巻頭特集 What is SILC? 崇城大学「英語教育“超”進化プロジェクト」レポート



学生が参加出演する新CMに注目を!!

学生たちが出演する新CMが、1月上旬からオンエアされます。下記地区のチャンネルにてご覧ください。

- 熊本/TKU ●福岡/FBS・TVQ・TNC ●長崎/NCC
- 大分/OBS ●宮崎/MRT ●鹿児島/KTS



工学部(宇宙航空システム工学科・専修課程/パイロット養成コース)の学生たちと大串信一郎実技教官



薬学部の学生たちと首藤恵子助手

情報学部の学生たちと中村末廣副学長

崇城大学 SOJO UNIVERSITY

- 工 学 部 機械工学科/ナノサイエンス学科/エコデザイン学科
建築学科/宇宙航空システム工学科<総合課程>
<専修課程航空整備士養成コース><専修課程パイロット養成コース>
- 芸 術 学 部 美術学科/デザイン学科
- 情 報 学 部 情報学科
- 生物生命学部 応用微生物工学科/応用生命科学科
- 薬 学 部 薬学科
- 大学院工学研究科
<博士後期課程>エネルギーエレクトロニクス専攻/機械システム工学専攻/
応用化学専攻/環境社会工学専攻/応用微生物工学専攻/応用生命科学専攻/
<修士課程>電気・電子工学専攻/機械工学専攻/応用化学専攻/
建設システム開発工学専攻/宇宙航空システム工学専攻/
応用微生物工学専攻/応用生命科学専攻
- 大学院芸術研究科
<博士後期課程>芸術学専攻
<修士課程>美術専攻/デザイン専攻

SOJO 検索 <http://www.sojo-u.ac.jp/>

〒860-0082 熊本市池田4-22-1
TEL.096-326-3111(代表) FAX.096-326-3000
広報誌「がくふう」第54号 発行/2009年12月
崇城大学広報誌編集委員会・広報課(koho@ofc.sojo-u.ac.jp)

02 SPECIAL ARTICLE

What is SILC ?

崇城大学「英語教育“超”進化プロジェクト」レポート

07 SERIES

九州・沖縄8県人の発見

09 A LABORATORY REVIEW

生物生命学部 応用生命科学科 医用生体工学講座 上岡研究室
工学部 機械工学科 東町研究室

11 NEWS

衝撃先端技術研究センター研究報告会
塩谷教授が生物工学会で生物工学賞を受賞
「looking for NEW EARTH」展を開催
薬学部がリメディアル教育への「e-learning」を導入
英国王立化学会が専門誌で新海教授を特集

12 TOPICS

パイロットコース生が飛行訓練や航空大学校見学を実施
学生フォーミュラチーム「Sojo Project F」が試走
第3回「SOJOピエンナーレ2009」表彰式
高難度な技能検定や資格試験に数多くの学生が合格

13 SOJO as it is

秋元研究室がサテライト研究室活動を現在進行形で展開

14 THE HISTORY OF PROFESSOR

芸術学部 デザイン学科 船津邦夫 教授

15 ALUMNI

ニチバン株式会社 梶原崇弘さん
株式会社モトラン 江藤洋幸さん

16 INTERNATIONAL EXCHANGES

国際交流だより

CLUBS' ACTIVITY

剣道部／生物研究同好会

17 THIS IS MY FAVORITE BOOK

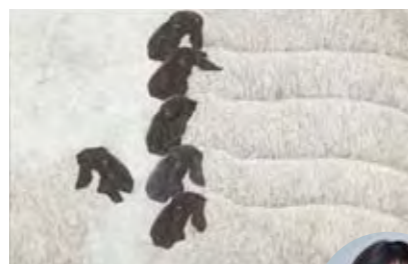
心響の一冊

18 LOCAL AREA COOPERATION

地域連携

SOJO COLLEGE INFORMATION

崇城大学専門学校からのお知らせ



■表紙アートは、大学院修士課程・美術専攻（日本画）を2009年3月に修了した川口恵（かわぐちめぐみ）さん（熊本県・熊本北高校出身）の作品「ひつじ唄II」。熊本動物園で出会った一頭の羊（サフォーク種）をモチーフに、その質感を“視覚的”に表現した150号の意欲作。「思わずさわってみたくなる」絵をめざし、画材を重ねて盛り上げる技法にチャレンジ。この作品を発表した大学院研究科修了制作展では実際、さわってみた人もおられたよう。また学部生の頃から一貫して動物をモチーフに取り組む川口さんは現在、1年間の期限つきながら、作家としての創作に没頭中。「その後も10年、いや20年は動物をテーマに描き続けていきたいと思っています」と語ってくれました。

April, 2010 Open!!



What is SILC?

崇城大学「英語教育“超”進化プロジェクト」レポート

2010年4月、崇城大学は英語教育のさらなる充実をめざし、その拠点かつ推進機構となる「SILC*」を開設する。
*Sojo International Learning Center

同時に、日本における英語教育のリーダー校のひとつであり、独自の指導メソッドと実績をもつ神田外語大学（東京）と連携。同大が実践をふまえて選考したネイティブスピーカー10名が専任講師として赴任してくる。では今なぜ、理工・芸術・薬学系の崇城大学が、そのような取り組みを行い、英語教育を“超”進化させようとするのか――。グローバル化が進み続ける社会を見つめた、このプロジェクトの意図に迫ってみよう。



2010年度 入学試験情報

自己推薦試験	実施学部	工学部 ^{*1} 芸術学部 ^{*2} 情報学部 生物生命学部
	願書受付期間	02月08日[月]～02月22日[月]
	試験日	03月02日[火]
	合格発表	03月05日[金]

一般試験	実施学部	全学部 ^{*1}
	願書受付期間	01月08日[金]～01月25日[月]
	試験日	01月30日[土]・01月31日[日]（試験日選択型）
	合格発表	02月10日[水] ※薬学部は02月12日[金]
後期	実施学部	全学部 ^{*1}
願書受付期間	02月15日[月]～03月10日[水]	
試験日	03月14日[日]	
合格発表	03月19日[金]	

大学入試センター試験利用試験	実施学部	全学部 ^{*1}
	願書受付期間	01月08日[金]～02月01日[月]
	試験日	本学独自の試験は課さない
	合格発表	02月10日[水] ※薬学部は02月12日[金]
中期	実施学部	全学部 ^{*1} （薬学部は中期日程に後期として実施）
願書受付期間	02月15日[月]～03月11日[木]	
試験日	本学独自の試験は課さない	
合格発表	03月19日[金]	
後期	実施学部	全学部 ^{*1} （薬学部は中期日程に後期を実施）
願書受付期間	03月15日[月]～03月23日[火]	
試験日	本学独自の試験は課さない	
合格発表	03月27日[土]	

※1 宇宙航空システム工学科は総合課程のみ ※2 芸術学部は自己推薦試験
※3 工学部（※1）・情報学部・生物生命学部・薬学部は特待生選考を兼ねています

<工学部 宇宙航空システム工学科 専修課程>

前期	実施コース	航空整備士養成コース（専修試験）、パイロット養成コース（一般試験）
	願書受付期間	01月08日[金]～01月25日[月]
	試験日	01月30日[土]
合格発表	02月10日[水]	
後期	実施コース	航空整備士養成コース（専修試験）、パイロット養成コース（一般試験）
	願書受付期間	02月15日[月]～03月10日[水]
	試験日	03月14日[日]
合格発表	03月19日[金]	



※各プラン(計画図面)は2009年10月時点であり、完成時との異なりについては予めご了承ください。



**Project Leader
MESSAGE**

事務局長 渡邊 和親

**皆の前で英語を話す双方向型授業は
日本語でのコミュニケーション能力さえ
飛躍的に伸ばしてくれる**

今回の改革を、岳風の編集スタッフが「英語教育“超”進化プロジェクト」とネーミングしてくれましたが、管轄主幹である私自身も「大学の狙いをうまくあらわしてくれな」と思っています。但し大学には、学生たちに確かな英語運用能力を身につけてもらうことに並ぶ、深い意図もあるのです。それは「少数制の双方向型授業により、皆の前で英語を話すことを通じて、コミュニケーション能力の重要性を再認識させること」に他なりません。だから来春から本学で学ぶ新1年次生に、たとえ「英語が苦手だから理系あるいは芸術系の学部に進んだのに」という人がいても、皆の前で英語を話し、伝えようとすることに頑張してほしいのです。その結果、英語力はもとより、日本語でのコミュニケーション能力が飛躍的に向上するはず。各学部・学科の専門教育に、このような“プラス・アルファ”を狙う崇城大学へ、大きな期待をお寄せください。

SILC April, 2010 Open!!

**学生会館が「SILC*」となる春、
崇城大生の多くが英語を話し始める。**

*Sojo International Learning Center

2009年7月、新・英語教育の導入および「SILC」の2010年4月の開設に向けて、本学と神田外語大学(東京)の協力協定に関する締結式が行われた。その内容をもとに、本誌が「英語教育“超”進化プロジェクト」と呼ぶ今回の取り組みは、本学が進めてきた教育改革の一環であり、2010年度入学の新1年次生の英語授業を主に展開される。また新カリキュラムにより、コミュニケーション重視の授業を行うのは、協力協定を結んだ神田外語大学(東京)が本学での実践をふまえ選考した10名のネイ

ティブスピーカーであり、英語教育の専門家でもある彼ら常勤講師陣の実力の高さも確認されている。しかしプロジェクトの目的は「国際舞台での活躍やグローバル化が進む社会への対応を視野に入れた、英語が話せるエンジニアや薬剤師、芸術家やクリエイターの育成」にあり、新1年生を対象とした英語授業に限らず、ネイティブスピーカー講師たちは全学生との交流を図る。そして、その主な場となるのが、学生会館を改装した「SILC」である(イメージCG参照)。

この「SILC」には、神田外語大学の英語教育メソッドに則した“シカケ”が随所に施されており、ネイティブスピーカー講師とはもちろん、学生相互も気後れなく英語で会話する環境づくりがめざされている。また「SILC」のディレクターを務めるジョナサン・ローベリー氏からも「私たちの交流やコミュニケーションを楽しむことで英語を身につけていきましょう。皆さんとの出会いを待望しています」とのメッセージが届いている。なお2010年度以降もネイティブスピーカー講師は増員される予定であり、理工・芸術・薬

学系の本学ながら、キャンパスの国際性は増し続けることだろう。専門の学びが進むほどに、研究や創作が深まるほどに、「英語力の必要性」を感じている学生たちにとって、この「SILC」をサロンとするメリットは多大。まずは英語でのコミュニケーションに慣れて親しみ、世界へ雄飛してほしいものである。

**SILC Director and Assistant Director
PROFILE**



**Director
Jonathan ROWBERRY**

(ジョナサン・ローベリー)
イギリス(ロンドン)出身。ロンドン大学教育学部にて「英語を母語としない者への英語教授法」を専攻、「MA in TESOL」を取得。神田外語大学での教育実践を経て、現在は英国で教壇に立つ。



**Assistant Director
Scott CROWE**

(スコット・クロウ)
オーストラリア出身。南クイーンズランド大学で応用言語学を専攻し「MA Applied Linguistics」を取得。神田外語大学に4年間在職。



**Assistant Director
Christopher STILLWELL**

(クリストファー・スティルウェル)
アメリカ(ニューヨーク)出身。コロンビア大学で英語教授法を学び「MA TESOL GPA 4.0」を取得。神田外語大学に4年間在職。

I want to be able to speak English !!

英語が話せるエンジニアや薬剤師へ、
芸術家やクリエイターへ。



円卓中央にあるのは、中村末廣副学長が「なにかを気づききっかけになれば」と持参された英国赴任時の写真の数々。驚くことに、そこにはエリザベス女王やチャールズ殿下と談笑する中村末廣副学長の姿が。



Suehiro NAKAMURA

●中村 末廣 / 崇城大学 副学長 / 1959年にソニー入社。英国「SONY UK limited」の収益力を大幅に高めることに成功し、テレビ事業本部長から執行役員社長まで歴任。2002年にソニー中村研究所を設立。2007年1月より本学副学長。就任以来、情報学部・情報学科の改編をはじめ、本学の教育改革にリーダーシップを発揮してきた。

Sayuri NAKATA

●中田 小百合 / 大学院博士後期課程 応用生命科学専攻2年次生 / 熊本県・熊本高校出身 / 高校時代は自称「勉強が苦手だった」が、本学での学びや研究にふれ、その楽しさや充実感から「気づけば大学院博士後期課程まで進んでいました」とのこと。現在は上岡龍一教授のもと「細胞膜のゆらぎ」によるガン治療薬の研究・開発に参画中。



Hiroaki FUKUSHIMA

●福嶋 寛明 / 大学院修士課程 電気・電子工学専攻1年次生 / 福岡県・東福岡高校出身 / 学部ではソフトウェアを主に学究。その発展を求めて大学院に進み、現在は音の反射・反響を視覚シミュレーションするソフトウェアの制作を行う。今年度9月には約10日間、ヴェトナム国立大学との騒音対策共同研究のため現地入りしている(本誌16P参照)。

Namiko KOBAYAKAWA

●小早川 菜美子 / 薬学部 薬学科3年次生 / 熊本県・真和高校出身 / 医師や看護師たちと連携、チーム医療の一員として活躍する臨床薬剤師になるのが目標。欧米で開発された新薬の情報収集、外国人への服薬指導などを意識し「確かな英語運用能力を身につけておきたい」という。ドイツへの派遣時に親しくなった各国学生たちとの交流は今も続いている。



Yui TAKANO

●高野 結衣 / 芸術学部 美術学科(芸術文化コース)3年次生 / 熊本県・必由館高校出身 / 教会のワークキャンプによりインドを訪れ、現地でふれたインド文化の奥深さに興味を持った。中村末廣副学長へ「英語圏の留学先・協定先を増やしてほしい」とアピールした。

Chiharu HIGUMA

●日熊 千春 / 工学部 ナノサイエンス学科2年次生 / 福岡県・直方高校出身 / 医薬品や化粧品などにナノサイエンスを応用する研究者になることが現在の目標。しかし知的好奇心の幅はかなり広く、「将来の夢が広がり過ぎて困っています」とのこと。また今回の談話により「海外留学や外資系企業への就職が視野に入ってきました」とも述べる。



●先のページでの「SILC」の紹介にもあるように、グローバル化が進み続ける社会において、本学が育成する理工系の研究者やエンジニア、ITエキスパートや薬剤師、アーティストやクリエイターにも「英語というスキル」が不可欠なのは明らかながら、ではその必要性を学生たちはどれほど感じているのか。プロジェクトの発表から約4カ月を経た晩秋、元ソニーの副社長である中村末廣副学長を座長とする円卓へ、5学部5名の学生が集まってくれた。その冒頭、中村末廣副学長は約10年にわたった「SONY UK (英国) Limited」での国際ビジネスや英国生活の経験をふまえ、学生たちの発言を次のように促した。

中村 ソニーはどれほど巨大企業になっても「技術屋集団」であることを自認してきた。その一方、新たな技術を開発し、それをより多くの人々の暮らしに役立てるには、世界中から情報を受信すると同時に発信しなければならず、英語を日本語と同等の「社内共通語」にする必要があった。だから会議に日本語を母語としない者が一人でもいる場合、全員が英語で議論した。また創業者の一人である盛田さんも英語でのスピーチを世界中で行い、各国の人々から「その簡潔かつ丁寧な英語は熱意が伝わるものだった」との評価を得ていた。そして今、これらを「ソニーだから……」などと捉えず、自身も同じ環境にあると思ってほしいがどうだろう。

●ソニーというグローバル企業での英語運用の実際はふれ、以前に参加した国際学会でのことを想起した中田小百合さん(大学院博士後期課程2年次生)が、まずは発言することに。

中田 専門はバイオベースのガン治療に関する研究。海外の資料や文献を読むことはもちろん、試薬や実験器具には欧米製も多く、その取寄せや仕様書を通じて、学部4年次の頃から英語は必要不可欠な状況でした。しかし東京で行われた学会で発表した際、ある参加者から英語で質問されて困窮。科学に「国境がない」ことを痛感した私はもちろん、本学に導入される「新・英語教育」や「SILC」の開設は、研究者をめざす者にとっても朗報だと思います。

●この発言が呼び水となったのだろう。情報学系の研究に取り組む福嶋寛明さん(大学院修士課程1年次生)が発言をつなげる。

福嶋 日進月歩のIT領域において、新たな技術が日本語で解説されるまで待っていたら、それは新技術でなくなってしまう。また米国の書籍や資料も英文版なら発行直後に入手できます。世界中と瞬時に情報交換するインターネットの存在を前提とした技術開発を行う者にとって、「英語ができない」は致命的なこと。それについては入学前から意識しており、学部3年次の9月には、本学が実施した英国語学研修に参加しました。

●学生たちの国際志向は中村末廣副学長が思っていた以上に高いようであり、次いで発言した薬学部3年次生の小早川菜美子さんもその一人。彼女は2年次の夏、ドイツで行われた「ISH*2008」へ派遣されている(写真はその際の小早川さん/前列中央)。

*International Summer Science School of Heidelberg



小早川 入学早々、熊本市が渡航費の一部を負担してくれる「ISH」のを知って一念発起。これからの薬剤師に英語力が求められることも強く意識しながら英会話学習に取り組み、学内や熊本市の選考などを経て、派遣学生に選ばれました。ドイツ・ハイデルベルグ市では世界の各地から選ばれた学生たちと共に約1カ月間、自然科学系の講義・演習に動きました。その共通語はもちろん英語。私と同様、学生たちは英語を母語としないにも関わらず皆が流暢。来春、本学に開設される「SILC」へも足繁く通い、ネイティブスピーカーの先生たちとの会話・交流から、英語力をさらに高めていきたいと思っています。

●そんな小早川さんは1年次、福嶋さんが先に述べた英国語学研修に赴いており、次に発言した芸術学部・美術学科3年次生の高野結衣さんも同プログラムの参加学生。

高野 以前から国際的な活動に関心があり、私も1年次に約2週間、ロンドン郊外にホームステイしながら語学学校で英語の勉強をしました。また、その翌年には熊本市の教会が募ったインドでのワークキャンプに参加。その時のインパクトが強く、3年次に洋画から芸術文化へ転コースし、インド美術を勉強中です。英語の文献を読む機会も少なくありません。

●また彼女は2009年9月、芸術学部生たちが、スマトラ沖地震の津波被災孤児たちをアートで元気づけようと考え企画した「heART giving project」にも参画。スリランカで約10日間の活動をしてきた(写真はその際の高野さん)。



高野 子どもたちとのふれあい、現地の方々との会話に英語が有効でした。それまで「人と人、心と心で通じあうさ」と言っていた芸術学部の仲間たちでしたが、英語が話せることによるコミュニケーションの広がりを知ったみたい。私たちの間でも「SILC」への期待が高まっています。

●このような先輩たちから、大いに刺激を受けたのが工学部・ナノサイエンス学科2年次生の日熊千春さん。その意見は、多数の学生の共通認識と思われる。

日熊 中高と英語が苦手なこともあり、理系に進学したんです。でも先輩たちが言われるように、勉強が進むほど資料文献や実験器具の取扱説明書を読むのに英語力が必須になってきました。またナノサイエンスの分野は、世界を相手とした開発競争が激しく、英語での情報収集ができなければ遅れをとります。同級生たちとも「今後は英語“を”学ばずだけでなく、英語“で”学べるようになりたいね」と話しています。英語教育の専門家である10名のネイティブスピーカーの先生方が赴任されてくる4月が、とても待ち遠しく感じます。

●これを機に「交換留学や海外交流協定大学との単位互換などの制度を充実させてほしい」といった意見も出るなど、ここから各自の発言が続々となっていったこの日。英語を「仕事語」としてきた中村末廣副学長による次の総括に、このプロジェクトの真価が込められていると思われる。

中村 プロジェクトについて「理工・芸術・薬学系の崇城大学に、英語教育をそこまで充実させる必要があるのか」という声があるのも事実だろう。しかし私は、今日の皆の意見に全学生の声が集約されていると感じる。実際、社会のグローバル化は学生たちのほうが強烈に意識しているようであり、それを真摯に受けとめた中山学長の英断に私はエールをおくる。また協力協定を結んだ神田外語大の英語教育メソッドは素晴らしい。授業に限らず、すべての学生たちに大きな成果をもたらしてくれることだろう。そして、それらが本学の人材育成指針に加わったことを私は誇る。英語が話せるエンジニアや薬剤師として、芸術家やクリエイターとして、皆が国際舞台で活躍してくれる日に向けて――。

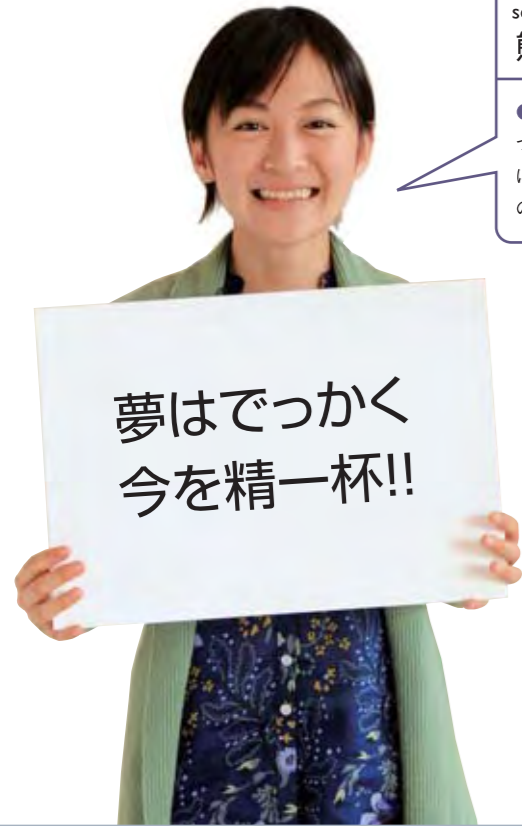
What is **SILC**?
崇城大学「英語教育“超”進化プロジェクト」レポート

九州 沖縄

県人の発見

はっけんじんのはっけん

崇城大学生の約90%を占める九州・沖縄8県の出身者。
 そんな彼女ら彼らがこのキャンパスでの出会いや学びから、
 どんな夢や目標、新しい自分や故郷への想いを見つけたのか。
 これから毎号、8県8名の発見を紹介しましょう。



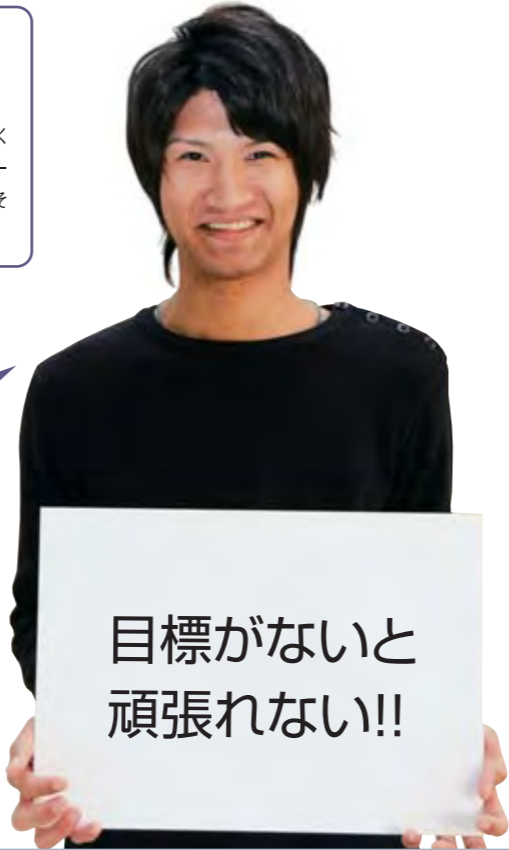
series_03@01
熊本県人
 生物生命学部
 応用微生物工学科4年次生
 後藤 裕美さん
 熊本県 東稜高校出身

●近頃「運命って自分の意志とは別に動いているんだな」とつくづく感じます。今まで22年間、すべての出会いが私のエネルギーになっており、たくさんの人々に支えられてきました。これからはその恩返しができる人になりたいです。今を精一杯頑張るのみ!

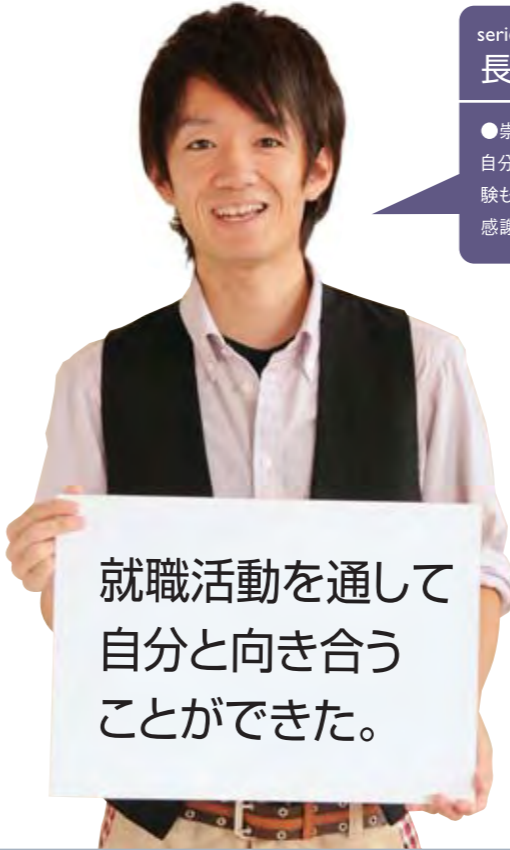
夢はでっかく
 今を精一杯!!

series_03@02
福岡県人
 工学部 エコデザイン学科3年次生
 葉 永治くん
 高等学校卒業程度認定試験合格

●入学早々、アイスホッケー部に入部しました。当初は「バイト優先で適当に楽しもう」程度に考えていましたが、気づけばアイスホッケーに魅せられ、今は部活動優先の毎日を過ごしています。目標は毎年冬にある「九州学生選抜VS関西大学」のメンバーに選ばれること。頑張ります!!



目標がないと
 頑張れない!!



series_03@05
長崎県人
 工学部 機械工学科4年次生
 百岳 大紀くん
 長崎県 大崎高校出身

●崇城大にはしっかりした就活サポートがあり、自己分析などで新しい自分を発見することができました。またサークル(軟式野球部)での経験も役立ち、地元企業から内定をいただくことができました。卒業後は感謝の気持ちを忘れず、長崎の発展に貢献できるように頑張ります。

就職活動を通して
 自分と向き合う
 ことができた。

series_03@06
鹿児島県人
 工学部
 ナノサイエンス学科4年次生
 竹 美知瑠さん
 鹿児島県 与論高校出身

●熊本に来て、温泉や阿蘇に行ったり、キャンプをしたり、初めての体験がたくさんできました。また様々なキャラの友だちが数多くでき、毎日楽しく過ごしています。これからもいろんな所へ行き、学生生活を楽しみたいです。



素晴らしい
 友人たちとの
 初めての体験。



series_03@03
大分県人
 薬学部 薬学科3年次生
 鷹野 麻里奈さん
 大分県 日田高校出身

●大分には薬学部がなく、県外に出なければなりません。それで今、一人暮らしをしていますが、大変なことも多いです。でも困った時は仲間が助けてくれ、あらためて「友だちって大切!!」と実感しました。これからも仲間を大切に、楽しい毎日していきたいです!

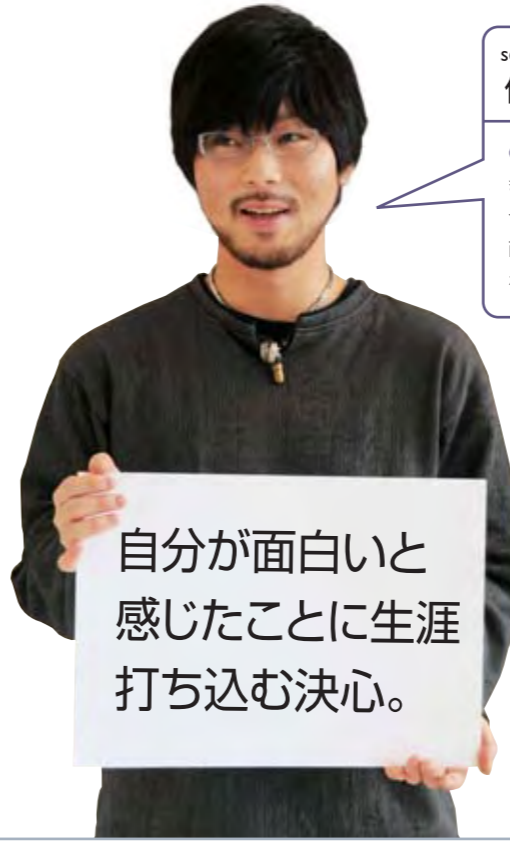
友だちが
 なにより大切!!

series_03@04
宮崎県人
 工学部 建築学科4年次生
 日高 由実子さん
 宮崎県 延岡高校出身

●自分を成長させてくれる、たくさんのお出会い・発見がありました。自分がこんなに熱中できる分野に気づくことができたのも、支えてくれる先生方や仲間、そして温かく迎えてくれる居場所があってこそ。すべてに感謝しています。



全力“100%”で
 頑張れるものを見
 つけました。



series_03@07
佐賀県人
 芸術学部 美術学科4年次生
 諸井 謙司くん
 佐賀県 佐賀北高校出身

●高校時代から美術に関わり、この分野で生きていきたいと思っていました。大学に入って今日まで、その気持ちは強くなるばかり。自分が面白いと感じたことが、さらに面白く感じられるなんて……とても幸せなことだと思います。

自分が面白いと
 感じたことに生涯
 打ち込む決心。

series_03@08
沖縄県人
 情報学部3年次生
 知念 諒くん
 沖縄県 名護高校出身

●入学早々、サークル紹介のオリエンテーションで存在を知ったのが「DJEMBE(ジャンベ)」というアフリカの太鼓。興味津々で入部し、ジャンベの奥深い魅力を届けようと各地でイベントを行いました。音楽と共に笑顔も届けられ、今とても充実しています。



“DJEMBE”という
 アフリカの太鼓。



UEOKA Laboratory

ハイブリッドリポソームを用いた副作用のない制ガン剤を研究開発

● 一般に使われている制ガン剤はガン細胞だけでなく、正常な細胞も殺してしまうため、副作用とよばれる強い毒性があります。そのため患者はガン細胞だけを殺し、正常細胞にはまったく作用しない、副作用のない制ガン剤の一日でも早い開発を望んでいます。

● 私たちの研究室では、独自に開発した人工細胞膜（ハイブリッドリポソーム／図1）を用い、副作用のない制ガン剤の開発をしています。

● 従来の強い制ガン剤はガン細胞を強引に殺すため、周囲に残留物が散らばり、炎症やガンの再発を引き起こす可能性があります。

● しかし、アポトーシス（プログラム死）はバラバラになったガン細胞を掃除屋細胞であるマクロファージ（貪食細胞）がきれいに食べつくしてしまうので、副作用の心配がありません。

● アポトーシスの例として、オタマジャクシがカエルになるとき、尾はアポトーシスにより消去されます。ハイブリッドリポソームはガン細胞に対してのみアポトーシスを起こし、正常細胞に対してはまったく作用しない、理想的な制ガン剤である可能性があることがわかってきました。

● ガンになった動物をハイブリッドリポソームで治療したところ、副作用なくガンが大きくなるのを抑えることがわかりました。

● そこで、医師が悪性リンパ腫の患者をハイブリッドリポソームで治療したところ、副作用なくガンを1/8に縮小しました（図2）。

● ハイブリッドリポソームは、私たちの研究室で世界で始めて開発された体に優しいナノ粒子です（1ナノメートル=10億分の1メートル）。

● ハイブリッドリポソームは、卵や大豆に含まれるレシチンという物質と石鹸分子を水溶液中で超音波処理すると得られる天然物由来の人工細胞膜です。人工細胞膜は、中に薬物を取り込むことができる形状のため、薬物を取り込んだ人工細胞膜を用いて患部へ薬物を送り届ける薬物送達システムと呼ばれる研究がされています。

● しかし当研究室が開発したハイブリッドリポソームは、薬物をまったく入れなくともガン細胞だけを殺すことがわかりました。



● 今後、詳細な制ガンメカニズムの解明や臨床応用例を増やすことで、副作用の無い制ガン剤を望んでいる患者さんへ1日でも早く用いることができるよう、新薬としての認可をめざしていきます。

この数年の主な活動

● 2009年2月「第2回ナノメディスン国際会議・愛知」で基調講演を、7月に「抗ウイルス国際サミット2009・中国北京」で招待講演を行いました。発表内容はそれぞれ「ハイブリッドリポソームのみによるガン治療」、「ハイブリッドリポソーム自身によるHIV治療」です。

● 上岡研究室の国際会議での発表としては、古水雄志博士研究員が6月にフランス・パリで開催された「第10回有機化学国際シンポジウム」で研究発表を行っています。その他国内学会として、日本ガン分子標的治療学会（6月・徳島）、日本アポトーシス研究会（7月・長崎）、日本癌学会（10月・横浜）、日本生物物理学会（10月・徳島）などで研究成果を発表しました。

● 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究「揺らぎが機能を決める生命分子の科学（略称／揺らぎと生体機能）」平成20～24年度（領域代表／寺嶋正秀教授・京都大学大学院理学研究科）に計画班（A03班「揺らぎと機能」）班長として参加しています。1月に第1回公開シンポジウム（京都）、3月に第二回公開シンポジウム（愛知）が実施されています。さらに代表世話人として、第1回合同班会議を9月に南阿蘇で開催しました。

● その他、文部科学省科学研究費補助金をいただき、ガンやエイズに関する研究やバイオマスの有効利用の観点から焼酎蒸留粕の医療応用に関する研究を進めています。

● 学術論文は、この1年で12報（トータルでは140報）を発表しています。

学生にきく



大学院 博士後期課程応用生命科学専攻1年次生
扇谷 昌宏 さん
兵庫県 須磨東高校出身

自身の研究テーマは？

● テーマは「難治性疾患治療に関する基礎研究」です。難治性疾患とはC型肝炎やガンといった現代の医学・薬学でも治療が困難な疾患のことであり、多くの方が副作用のない治療薬の開発を望んでおられます。

研究室の雰囲気は？

● 学部生23名、修士課程生20名、博士課程生9名、スタッフ8名、合計60名という大所帯です。人数が多いこともあり、先輩と後輩が共に実験をしたり、話をしたりする機会が多く、和気あいあいとした雰囲気です。忘年会や慰労会などのコンパも多く、先生と学生と一緒にお酒を飲んでカラオケを楽しんでいます。

上岡教授はどんな先生？

● 学生のことを第一に考えてくださる「あったかい」先生です。学外での講演などで多忙な先生ですが、私たち学生とのミーティングを優先に考えてくださいます。普段はお酒が好きで温厚な先生ですが、研究に対しては真摯で厳しく、私たちは良い緊張感をもって研究を行っています。

「CAD/CAE」技術を用いて歯の長寿命化のための力学等を研究



HIGASHIMACHI Laboratory

● 「CAD/CAE」とはコンピュータ上に形状をつくり、材質や荷重を与えて変形や強度、振動、温度分布などの工学的シミュレーションを行う技術です。半導体から宇宙まで、あらゆるものに適用できます。

● 当研究室では、この技術を活用して軽量高剛性の構造物を設計したり、生体分野へ適用して未知の現象の解明に取り組んでいます。

● 例えば、虫歯（ウ蝕）の発生箇所は応力集中部であるという仮説を立て、その仮説の正しいことをCAEシミュレーションにより検証、歯の磨耗や切り欠き、歯槽骨の隆起、歯周病の発生等も応力集中と密接な関係があることを突き止めました（図1）。

● また噛み合わせの力は顎関節を通して外耳道、中耳、内耳の骨組織へと伝わります。外耳道や鼓膜に真珠腫と呼ばれ、中耳炎等の原因になる垢の塊が発生する場所も応力の集中する場所であることがわかりました（図2）。

● めまい、耳鳴り、難聴等の原因に力の集中が関与している可能性も出てきました。これらは歯科、耳鼻科の医師との共同研究の成果です。

● さらに半導体分野に適用し、LSI（大規模集積回路）を立体的に積み重ねて性能を飛躍的に向上させる技術の要となる微細な先鋭パンプ（電極）の最適構造設計に成功しました。それは、できるだけ弱い力でLSIチップ同士を接合でき、しかも座屈という不安定な変形を起こさないスリムな電極です（図3）。

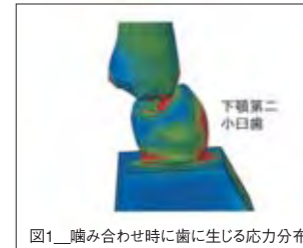


図1_噛み合わせ時に歯に生じる応力分布

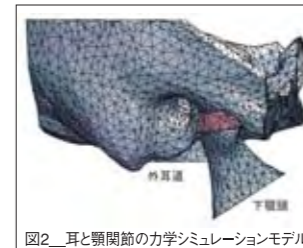


図2_耳と顎関節の力学シミュレーションモデル

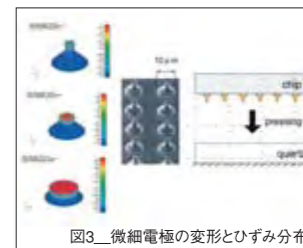


図3_微細電極の変形とひずみ分布

工学部 機械工学科
東町研究室
● 指導教員／東町高雄 教授（工学博士）
● 専門分野／材料力学 CAD/CAE



学生にきく



大学院 修士課程 機械工学専攻2年次生
内梨 実 さん
大分県 大分東高校出身

自身の研究テーマは？

● 「振動覚検査用小型振動発生機構の試作と特性評価」をテーマに、振動現象を利用した医療器具の開発についての研究を行っています。一般的に振動覚検査では振動させた音叉を使っていますが、この方法では患者の状態によって検査が困難な場合があります。本研究では音叉に替わる患者を選ばない検査のできる装置の新規開発をめざしています。

研究室の雰囲気は？

● 学生は皆それぞれ強い個性をもっており楽しくやっています。午後になると次第に人が集まり、夜遅くまで作業する者もいます。「夜型の研究室」と言えるかもしれません（笑）。

東町教授はどんな先生？

● 学生一人ひとりを見てくれる真面目で優しい先生です。どんな事でも一緒に考えてくれるなど、あらゆる面からお世話になっています。またお酒も適度に強かったり、毎日学内を散歩されたり、私たちより元気があって活発という意外な先生でもあります。そんな先生に気に入られようと、自然と頑張りやという気にさせてくれます。私自身、先生のお陰で大学生活をとても有意義に過ごすことができました。

この数年の主な活動

● 歯科医と長年取り組んできた「歯の長寿命化のための力学的研究～歯および歯周組織の疾患と応力の相関に関する研究～」が2009年3月の精密工学会誌に掲載されました。虫歯発生の起点が応力の集中箇所であることを初めて明らかにした論文です。

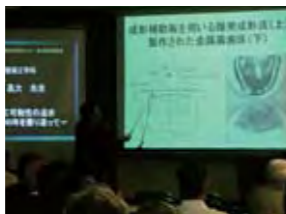
● 耳と顎関節の力学モデルを構築し、CAE解析により、耳の疾患にも力が寄与していることを初めて明らかにしました。12月の精密工学会で大学院生と発表しました。

● 現在、音叉を用いて感覚的に行われている振動覚検査装置の性能向上をめざし、新しい小型振動発生機構を試作し振動特性を評価しました。2008年10月の日本設計工学会で発表し、その続報を2009年12月の精密工学会で大学院生と発表しました。熊本高専との共同研究です。

● LSIの3次元積層時に必要な先鋭パンプ（電極）の変形挙動を非線形CAEにより明らかにし、その最適構造を提案しました。九州大学との共同研究です。

衝撃先端技術研究センター研究報告会

9月19日「衝撃先端技術研究センター研究報告会」が開催された。越光男・東京大学特任教授など2名の先生に特別講演者として参加いただき、本学からは4名がこれまでの研究成果をそれぞれ報告した。また一般公開としたこともあり、本学教員や学生、卒業生をはじめ、衝撃研究に関連の深い熊本大学や八代高専の教授、学生、卒業生、旭化成ケミカルズ(株)や日興技化(株)などの関連企業・技術者など合わせ約70名が聴講した。それぞれの発表に対し、聴講者から熱心な質問があり、活発な討論が展開された。最後に特別講演者の越特任教授から「研究を新鮮に感じ、発表を興味深く拝聴しました」との感想をいただいた。



<特別講演>
越光男(社)火薬学会長 東京大学特任教授「衝撃波と化学反応(爆轟限界の実験的・理論的研究)」
千葉昂 熊本大学名誉教授「生体材料創製への衝撃圧縮技術への応用」
<本学からの研究発表(全員が工学部)>
白本和正 機械工学科 准教授「水中衝撃波の材料加工への応用」
吉良章夫 機械工学科 准教授「衝撃超高压発生装置の開発」
友重竜一 ナノサイエンス学科 教授「擬爆燃現象を利用した材料合成～宇宙居住の可能性へ向けて」
藤田昌大 機械工学科 教授「衝撃加工可能性の追求～衝撃研究40年を振り返って」

「looking for NEW EARTH」展を
崇城大学ギャラリーで開催

芸術学部デザイン学科・三枝ゼミ主催のメディアアート展「looking for NEW EARTH」が9月10日から30日にかけて崇城大学ギャラリーで開催された。展覧会は、トーマス・ヴェンドランド氏(ポーランド)と三枝泰之教授の親交から生まれた企画であり、2005年の「EU-SOJO Art Drive」展からつながる。今回はヨーロッパ6カ国(エストニア/クロアチア/ドイツ/トルコ/イギリス/ポーランド)より6名のアーティストが来日、自らの手で作品を設置した。開催前日の9月9日には熊本市現代美術館・アートロフトに於いて「未来派宣言から100年後」と題したパネル・ディスカッションが催され、崇城大ギャラリーではベネチア・ビエンナーレで発表しているパスコ氏(クロアチア)のパフォーマンスも行われた。



英国王立化学会が専門誌「Chemical Communications」で新海教授を特集



写真2点とも最も左が新海教授

工学部ナノサイエンス学科・新海征治教授の業績を称え、英国王立化学会が専門誌「Chemical Communications」に同教授の特集を掲載した(参考URL:http://www.rsc.org/Publishing/Journals/News/shinkai_issue.asp)。これに合わせて、オランダ・マーストリヒトにて開かれた第4回「Joint International Symposium on Macrocyclic & Supramolecular Chemistry, ISMSC 2009(大環状化合物および超分子化学に関する国際学会)」に同教授が招待され「Life Achievement Award」を授与された。

塩谷教授が生物工学会で生物工学賞を受賞

生物生命学部・応用生命科学科の塩谷捨明教授が、生物工学の分野で高度に顕著な業績を上げた研究者に授与される「生物工学賞」を受賞した。教授は微生物を中心に生物機能を解析し、その能力を最大限に発揮させる「生物プロセスシステム工学分野」を確立した。さらにこれをアミノ酸や抗体、生分解性ポリマーなどの重要なバイオ生産プロセスに応用し、その有用性を実証してこられた。近年では、細胞の代謝フラックス解析、乳酸菌と酵母との共生関係の解明とその利用、リグノセルロースからのエタノール直接発酵などに研究を展開している。これらの業績が高く評価され今回の受賞となった。また第61回「日本生物工学会大会(9月23日・名古屋)」で授賞式が行われ、「生物プロセスシステムの最適化に関する研究」と題する受賞講演も行われた。



前列最も左が塩谷教授

右が塩谷教授

薬学部がリメディアル教育への
「e-learning」を導入

昨今の高校生の理科系科目の履修状況を考慮し、薬学部では本年度より1年次前期に「薬学基礎演習」という科目のリメディアル教育(高校補習教育)が組み込まれた。その中で、広い意味での情報教育の一環として「e-learning」を導入したことも1つの特徴である。これはNewton社とのネットワークを介したシステムを利用したものであり、化学と生物に関して8回ずつ実施した。初めての「e-learning」ということもあり、学生に多少の戸惑いもあったが慣れるのも早く、熱心に学習を進めていった。また自ら自宅学習を行なう学生もおり、学力増進に大いに役立ったと考えられる。



工学部・宇宙航空システム工学科・専修課程
パイロット養成コースが飛行訓練や航空大学校見学を実施

2009年の夏休み期間中、空港キャンパスにて2年次生の飛行訓練が実施された。訓練当初は一人で飛べるようになるのかと心配したが、管制塔との無線交信も、終盤は管制官が驚くほど上達した。単独飛行ではエアラインのジェット機が飛び交う空を、学生が一人で離着陸するため緊張度は相当。地上で見守る教官や学生たちも緊張していたが、最後の一人が戻ってくると全員で祝福した。10月14日には単独飛行達成者10名全員に学長からウイングマークが贈呈された。また9月17日と18日、1年次生は宮崎の航空大学校で施設見学や教官・学生との交流などを行った。その礼儀正しい挨拶や受講態度に伝統を感じると共に、パイロットになる夢を実現するために教育訓練を受ける喜びと情熱も強く伝わってきた。後日提出された本学コース生たちの感想文には、いずれにも自らの考え・取り組みの甘さについて記されていた。同じ夢を追う同年代のライバルに接した貴重な経験を今後活かして欲しい。



学生フォーミュラチーム
「Sojo Project F」が試走

本年度も第7回全日本学生フォーミュラ大会出場に向け、崇城大学・学生フォーミュラチーム「Sojo Project F」が1年をかけて車両の設計・製作を行った。しかし残念ながら書類選考で不合格となり、大会参加は適わなかったが来年度の第8回大会に向け、今年設計・製作した車両の運動性能を確認・調査するため、9月3日に学内ヘリポートで試走会を行った。午前10時から午後5時までドライバーが交代しながら試走を繰り返したが、注力したサスペンションにも一切トラブルがなく、耐久性が証明された。この試走を通して整備性の向上や軽量化といった次年度に向けた課題も明確になり、また本年度の書類審査不合格の理由もわかった。来年度は書類・車両ともに万全を期して大会に臨めることが期待される。



第3回「SOJOビエンナーレ2009」表彰式

第3回を迎えた九州・高校生「SOJOビエンナーレ2009」の表彰式が11月22日、本館6F学術講演会場にて行われた。沖縄を含む九州各地から才能豊かな高校生の多彩な美術・デザイン作品、総数271点の応募があった。審査の結果、大津高等学校(熊本県)の矢野早紀さんの「glassy sky」がグランプリに輝いた。準グランプリは城北高等学校(熊本県)の上村育子さんによる「A」。表彰式ではグランプリの矢野早紀さんと準グランプリの上村育子さんへ、中山峰男学長から表彰状が授与された。またグランプリの矢野さんには副賞としてアメリカ海外研修旅行の目録が渡された。その他、各賞の授与が行われた。団体賞は佐賀北高等学校(佐賀県)。表彰式後のレセプションでは、賞に輝いた生徒や各校の先生方、芸術学部教員等との親睦が深められた。



グランプリの矢野さん



高難度な技能検定や資格試験に
数多くの学生が合格

平成21年度「機械加工(普通旋盤)技能検定」に学生10名が合格した(全員が工学部・機械工学科生)。

機械加工(普通旋盤)2級合格者

- 上村 尚也くん(4年次生)熊本県 八代高校出身
- 本山 幸照くん(3年次生)熊本県 八代高校出身
- 浦上 太郎くん(3年次生)熊本県 熊本西高校出身
- 井澤 和哉くん(1年次生)熊本県 御船高校出身

機械加工(普通旋盤)3級合格者

- 岡本 貴範くん(3年次生)熊本県 熊本西高校出身
- 甲斐健太郎くん(3年次生)熊本県 東稜高校出身
- 川口 智哉くん(3年次生)熊本県 八代南高校出身
- 田中 祐伸くん(3年次生)熊本県 熊本西高校出身
- 羽野 祐史くん(3年次生)山口県 野田学園高校出身
- 前田 隆志くん(3年次生)熊本県 東稜高校出身

平成21年度「第一級陸上無線技術士」国家試験に学生10名が合格した(全員が情報学部生)。

2009年1月期合格者

- 岡崎 祐くん(4年次生)大分県 竹田高校出身
- 勝木 賢士くん(4年次生)熊本県 宇土高校出身

2009年7月期合格者

- 甲斐田裕治くん(4年次生)福岡県 山門高校出身
- 龍造寺康史くん(4年次生)熊本県 玉名高校出身
- 伊藤 茂浩くん(3年次生)福岡県 山門高校出身
- 大谷 孝志くん(3年次生)福岡県 九州国際大学附属高校出身
- 後藤 弘憲くん(3年次生)熊本県 文徳高校出身
- 坂口 佳之くん(3年次生)佐賀県 佐賀工業高校出身
- 竹添 智春くん(3年次生)鹿児島県 川辺高校出身
- 兵頭 一也くん(3年次生)愛媛県 宇和高校出身

Photo Scrap*

10.10,11
みずあかり

10.18
テクノファンタジー

10.29,30
EE研セミナー

10.31,11.1
井芹祭

10.31
第4回オープンキャンパス

11.7
球技大会

11.28
田原坂駅伝

11.29
学園創立60周年
記念式典

9.24
これからの大学づくりを
学長と語る

工学部・建築学科の秋元研究室が玉名市高瀬でのサテライト研究室活動を現在進行形で展開!!

工学部・建築学科の秋元研究室は2006年度から、玉名市高瀬の談議処をサテライト研究室として使用しており、週末を中心に学生が常駐しています。このサテライト研究室には、玉名市や高瀬地区に関する調査・研究の拠点であると同時に、地元の人々との交流の場としての役割もあります。また今年度10月24日から11月1日の間、拠点とする玉名市高瀬で第2回「アート&町なかカフェ」というイベントが行われ、本学からも3学科の学生が参加。今回はサテライト研究室の研究内容の一部と、イベントの様子を報告します。



1 談議処(サテライト研究室)の2軒とりにある古民家の調査・研究をテーマにし……



2 専門家の方々にも協力してもらい……



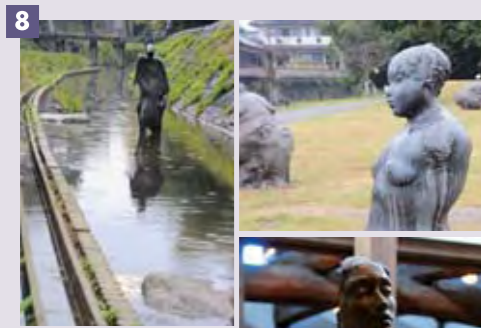
3 調査後に矩計図をつくり……



4 古民家の中に小民家をつくりました(古と小のダジャレわかりますか……やや苦笑)



5 木架構模型(1/20サイズ)は4日間で作りました(がんばりました)



8 イベント期間中の裏川公園には芸術学部・美術学科・彫刻コース生たちの作品が展示されました(素晴らしい!!)



7 談議処(サテライト研究室)の玄関前の暖簾製作はデザイン学科・原田先生に協力してもらいました(ありがとうございました)



9 玉名市高瀬に来たら談議処(サテライト研究室)にお立ち寄りください(ぜひ!!)



6 古民家には段ボールアートで「しとみ戸」も再現しました(グッドでしょ)



10 ちなみに夏には地域の子どもたち「きもだめし」をしました(おぼけ役でした・笑)

談議処(サテライト研究室)に常駐し活動を行っている秋元研究室の学生たち
 <大学院 修士課程 建設システム工学専攻2年次生>
 本田良輔さん/熊本県 阿蘇高校出身
 橋本大史さん/佐賀県 佐賀工業高校出身
 <工学部 建築学科4年次生>
 三好千草さん/熊本県 苓洋高校出身
 岡村紘子さん/熊本県 清々堂高校出身
 川上辰也くん/福岡県 大牟田高校出身
 三浦雄大くん/宮崎県 日向工業高校出身
 西田拓哉くん/熊本県 熊本工業高校出身
 片山瑛一朗くん/長崎県 西海学園高校出身

THE HISTORY OF A PROFESSOR

教授に歴史あり……シリーズ⑩

幼少時代 遊び道具や身のまわりのものを自分で作るような子どもでした

●幼い頃、知り合いの大工さんの仕事振りに入っていました。遊び道具や身のまわりのものを作るのも好きでした。それが私のデザイン活動の原点だと気づいたのは後年のことですが、自分で工夫して作り出す喜びは、民族・時代・年齢を問わず誰もがDNAの中にもっていると思います。

高校時代 デザイン系への進学をめざしデッサンの練習に必死に

●ブラスバンド部でクラリネットを吹いており、もっぱら野球の応援に借り出されていました。冬は“上州名物からっ風”に向かって懸命に自転車をこぎ通学していました。デザイン系への進学をめざし、デッサンの練習に必死になった夏休み……今の高校生たちと同様、夢と不安の入り混じった、少々灰色がかった青春だったかもしれません。男女別学の県でしたので“甘酸っぱい想い”とは無縁でした(笑)。



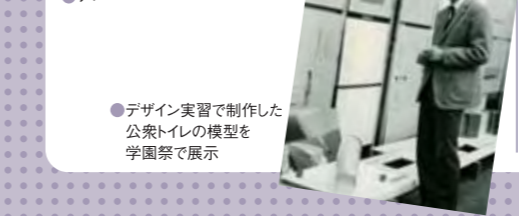
●ブラスバンド部でのクラリネット演奏(指揮者の右が船津教授)

大学時代 台湾からの留学生との出会いが人生の転機に

●進学した東京教育大学(現・筑波大学)教育学部・芸術学科で台湾からの留学生が同級生になり、それが私の人生の転機になりました。その頃は若者の海外渡航熱が高まりつつある時代。彼が放つ異文化の匂いに触発され、また中国語の習得もかねて、南の隣国へ約8カ月間の遊学……素朴な環境や人々に接し、暮らしの原点を体験することができました。日本語学習熱が盛んになってきた現地で頼まれ、吹き込んだレコードが大ヒット!! なんてエピソードもあります(おかげで今でも40年前の私の声を聞くことができます)。



●クラスメート(留学生)と一緒に



●デザイン実習で制作した公衆トイレの模型を学園祭で展示

遊び道具を自分でつくる子どもが世界の“Panasonic”のデザイナーへ

松下時代 30年間の勤務中に計5年間の海外赴任を経験

●大学卒業後は松下電器産業(現・パナソニック)株式会社に入社。デザイン部門で約30年、家電製品のデザイン制作および開発を担当しました。その間、デザイン職能ヨーロッパ駐在員としてドイツで4年、アメリカ・ケンタッキーの現地会社でデザイン部門責任者として1年、海外生活を体験。その後(財)国際デザイン交流協会にて3年間、中国をはじめとするアジア諸国のデザイン振興・調査・交流事業に従事しました。



●松下幸之助創業者へ社内の開発展示会で説明する船津教授(H炊飯ワゴン1979年)



●アメリカ赴任時代に現地のデザイナーと共にデザインしたクリーナー



●アメリカではハロウィンになると「職場の全員が仮装で出勤した」そう(?)

芸術学部 デザイン学科/大学院 芸術研究科
船津 邦夫 教授

プロフィール●1944年、群馬県前橋市生まれの獅子座で血液型はB型。群馬県立前橋高校から東京教育大学(現・筑波大学)教育学部・芸術学科に進学。同大卒業後は松下電器産業(現・パナソニック)株式会社に入社。デザイン部門に約30年間勤務し、その間に5年の海外赴任を経験。(財)国際デザイン交流協会を経て2000年より本学教授。専門はプロダクトデザイン。

現在 箸の端から端までがライフワークに

●あるきっかけで「箸」を収集し始めて約18年、今では研究テーマにまでなっていました。「箸にはものづくり・プロダクトデザインの端から端までの話が詰まっている」というのが持論。また昨今のマイ箸ブームで“前橋生まれ”の私も宿命から思わぬ脚光を浴び、箸のデザインを依頼され、ついにユニークで使いやすい箸を創作。名付けて「肥後竹節箸」。学生のアイデアも入れながらデザイン展開し、熊本発の商品としてプロデュースしました。

学生 “意志あるところに道は開ける”は時代を超えた真理です

●「フットワーク・ネットワーク・チームワーク」。これがデザイナーに必要なものだと思ってきましたが、どんな分野や立場でも同じだと思います。特に学生時代は好奇心と行動力を持ち、誰にも平等に与えられている“時間”という資源を無駄にせず、貪欲に自分の財産にして未来を拓いてください。またWhere there is a will, there is a way.「有志者事竟成」「意志あるところに道は開ける」は時代を超えた真理です。ぜひとも忘れないで欲しいと思います。

ALUMNI 活躍する卒業生

卒業生直撃
interview

粘着テープのトップメーカー「ニチバン」で 人と環境にやさしい対人用テープを研究・開発

ニチバン株式会社 研究開発部メディカル製品開発センター
●梶原 崇弘さん
2009年3月 生物生命学部 応用微生物工学科卒業 / 福岡県 朝倉高校出身



現在の勤務先と主な仕事の内容を教えてください

●ニチバン株式会社の研究開発部メディカル製品開発センターに所属しています。ニチバンは粘着テープのメーカーであり、文房具から医療用まで様々なテープを扱っています。私は現在、人と環境にやさしい粘着剤を使用した対人用テープの研究・開発と、学生時代の経験を活かした製品の滅菌系の確立という2つのテーマで仕事をしています。

学生時代の思い出を教えてください

●某ドラッグストアでアルバイトをしていたのですが、訪れるお客さんの個性が豊かで、アルバイトに行くのが毎回楽しみでした。私にとって「人と人の出会いって本当に面白いな」と思わせてくれた最初の場所でした。また、そのアルバイトがきっかけで、今の会社に強い興味を持つようになり、就職にもつながったと思います。

大学時代に学んだことが今どのように活かされていますか

●アイスホッケー部に所属し、日々深夜までハードな練習をしていました(日の出と共に帰宅ということも……)。それだけでなく昼夜逆転になりがちな学生の生活リズムは、深夜の練習によってさらに乱されていたと思います(笑)。しかし部活をやり抜く「忍耐」、先輩・コーチ・学外の人たちとの関係で培う「礼

儀」、学年が上がるにつれて増していく「責任」等々、社会生活に必要なことも多く学ぶことができました。

崇城大に学ぶ後輩たちへ アドバイスやメッセージをお願いします

●大学生活を思いっきり楽しんでください。これからの人生において、自由が謳歌できる時期は二度とないかもしれません。社会人になってから後悔しないよう“今しかできないこと”に積極的に挑んでください。

将来の夢を教えてください

●開発者として、大ヒット製品を世に送り出すことです。店頭で自分がつくった製品が並び、目の前で売れていく現場を見ることができればうれしいですね。

INTERNATIONAL EXCHANGES

国際交流だより

ベトナムの国立ハノイ土木大学(XAY DUNG)で 大学院生2名が現地での調査・研究に参加

●現在ベトナムは経済の急成長を遂げているが、牽引する役割を果たす交通手段、航空機や自動車、バイクによる騒音問題が深刻化している。
●これをふまえ、情報学部は2007年から学術協定を結ぶベトナムの国立ハノイ土木大学(XAY DUNG)において、騒音対策に取り組む共同研究チームを発足。その活動の一環として今年度9月9日から18日まで、本学の大学院生2名が現地入りし研究チームに参加した。
●参加したのは大学院修士課程1年次生(電子・電気工学専攻)の福嶋寛明さん(福岡県・東福岡高校出身)と高島佑介さん(福岡県・明善高校出身)。騒音測定やデータ処理のソフトウェア開発に共に取り組んだベトナム国立大生との交流を通して「ベトナムの大学生や先生たちの真剣さに大いに刺激を受けた。またベトナムの文化にもふれ、貴重な体験もできた。しかし、より綿密な情報交換や交流のためには、英語力が不足していた。今あらためて、英語を学ぶ必要性を強く感じています」と感想を述べた。



タイ国ブラファ大学の女性研究者が 応用微生物工学科に

●日本学術振興会(JSPS)とタイ国学術研究会議(NRCT)による「アジア研究教育拠点事業」として、応用微生物工学科・食品生物科学講座にタイ国ブラファ大学(Burapha University)の女性研究者ラタナボン・スリヴィブール(Rattanporn Srivibool)さんを受け入れた。期間は10月1日からの15日間。研究テーマは「タイ国で分離した海洋性酵母をもちいたアルコール飲料の試験」。研究成果の一部はすでに今年3月にタイ国で開催された「The 1st Seminar of Asian Core Program」、および9月にタイ国で開催された「The 3rd International Conference on Fermentation Technology for Value Added Agricultural Products 2009」で発表されている。ラタナボンさんは研究室の学生とともに実験に励み、学生にとっては英会話や専門英語の実践的トレーニングの格好の機会となった。



卒業生直撃
interview

国内外にシェアをもつ最先端の医療機器メーカーで 人工呼吸器のソフトウェアやユーザインターフェースを開発

株式会社メトラン 開発部
●江藤 洋幸さん
2000年3月 熊本工業大学 工学部 電子工学科卒業 / 2002年3月 崇城大学 大学院修士課程 電気・電子工学専攻修了
2009年3月 静岡大学 創造科学技術大学院 博士後期課程 自然科学系教育部 ナノビジョン工学専攻修了 / 熊本県 東稜高校出身



現在の勤務先と主な仕事の内容を教えてください

●株式会社メトランの開発部に所属しています。当社は動物用、小児・成人用の人工呼吸器を主とする医療機器の開発から製造・メンテナンスまでを行っており、国内外の医療機関で製品を利用いただいています。私の現在の業務内容は未熟児・小児用の人工呼吸器のソフトウェア開発であり、主にユーザインターフェース部分の開発を行っています。

学生時代の思い出を教えてください

●西村研究室に所属していた修士課程時代、ローマで行われた国際学会で発表の機会を得ました。学会発表自体が初体験であり、しかも海外。緊張であたふたした発表となってしまいましたが、修士課程で国際学会の発表機会を得るのは稀であり、貴重な経験だったと思っています。

大学時代に学んだことが今どのように活かされていますか

●製品の開発では、ハードウェア開発やソフトウェア開発が1つのプロジェクトとして連携しながら進めていきます。また、社内の人員だけではなく社外の方々とも協力する必要があります。これらには研究室において、テーマが同じ者ばかりよりも、異なる者とも互いに協力や相談しあい、研究発表や論文を作成した体験が土台になっており、今の仕事へ大いに活かされていると思います。

崇城大に学ぶ後輩たちへ アドバイスやメッセージをお願いします

●社会人になると様々な制約があり、時間をつくるのが難しくなります。比較的、自由に時間をつくることのできる学生の間に、少しでも興味をもったことがあれば実行し、多くの経験をしておくべきだと思います。

将来の夢を教えてください

●医療機器の開発をとおして、より多くの技術を身につけ、社会に貢献できるエンジニアになりたいと思っています。

CLUBS' ACTIVITY

女子部員「初の準優勝」で新たな歴史が!!

●剣道部は2010年に創部40周年を迎える伝統ある部です。橋村部長、江藤監督、濱口助監督のもと男子22名、女子7名(マネージャー3名)で日々稽古に励んでいます。
●これまで全国学生剣道選手権大会出場や、西日本大会でも上位に入る成績を残しています。
●なかでも女子部員が稽古を4年間続けるケースは少なく、男子部員と共に遅く励み続けた結果、2009年6月に行われた熊本県女子学生剣道選手権で初の準優勝に輝く快挙を成し遂げ、また、創部以来初の四段に昇段しました。
●また部には協力会があり、年に6回ほど部の情報誌を発行いただくなど、物心共に支援を受けています。
●部の雰囲気は和気藹々(わきあいあい)の中にも「道」を極める向上心に溢れており、部員同士がとても仲良くかつ切磋琢磨しています。
●今年の目標は団体戦での全国大会出場。大学から剣道を始めた部員も多くおり、初心者も大歓迎です。剣道に興味のある方はぜひ一度見学に来てください。



剣道部

主将 / 工学部 機械工学科4年次生
平川 陽くん
長崎県 鎮西学院高校出身

生物研究同好会



代表 / 生物生命学部 応用生命工学科3年次生
竹下 智子さん
鹿児島県 鹿児島中央高校出身

有機物分解菌や植物組織培養、酒や発光細菌が活動フィールド

●私たち生物研究同好会は、有機物分解菌班、植物組織培養班、酒班、発光細菌班の4班構成で活動しています。
●各班、自分たちで考えて実験を行い、顧問の先生からもアドバイスをいただきながら、学校行事である美井展・井芹祭で実験内容を紹介します。
●なお、これら4班に限らず、2年次からは自分の興味がある分野で新しい班を立ち上げて活動することも可能です。
●サークル内は先輩・後輩に関係なく仲が良く、夏には合宿を行い親睦を深めています。その一方「親しき仲にも礼儀あり」を心がけ、社会に出てから役立つことも考え、マナーや言葉づかい等の礼儀も大切にしています。
●部員一同、伝統を守りながら、より良いサークルに発展できるよう、日々活動しています。興味のある方はぜひ一度、気軽に見学に来てみてください。

物語にはさまざまな舞台が用意されています。まったくの架空世界である場合もあり、特定の場所を忠実に再現している場合もあり、後者の場合において物語の舞台が自分の身近な所だといつもとはちがった面白さを感じることができます。私は全国各地から熊本の本学で学んでいる学生諸君に、そのような面白さを味わって欲しいと思い、この「黄泉



「黄泉がえり」現象が熊本で局地的に多発することから始まり、彼らはなぜ、どうやって蘇ったのか……という話が全編、熊本の各地を舞台に進んでいきます。しかも登場する実在の地域に関する記述がふんだんに盛り込まれており、熊本の地理がわかる読者ならより一層、作品の世界を楽しめるように書かれています。また、この小説をジャンルわけすれば、SFに分類されますが、ユーモアやホラー、悲恋といったさまざまな要素も適度に盛り込まれています。読み心地の良いことや、死者が蘇ったことを喜びつつも戸惑う登場人物の目を通して「人と人との結びつきの素晴らしさ」を強く意識させられ、熊本の地理がわからなくても(本学の学生には少ないはずですが)充分、楽しめる作品です。

梶尾真治 著
黄泉がえり

新潮社 刊

あの草薙くん主演の映画でも知られる 死んだ者が蘇る「黄泉がえり」現象が この熊本で局地的に多発する物語です

●工学部 ナノサイエンス学科/西田正志 准教授

「黄泉がえり」を紹介します。この作品はSMAPの草薙剛さん主演で劇場映画化されヒットしたことや、最近ハリウッドでのリメイク製作が発表されたことでも知られています。ストーリーは、死んだ者が当時の姿そのままに蘇る「黄泉

心響の 一冊

This is my favorite book Series@07

紹介書籍は図書館でもクローズアップ!!

この本は崇城大に赴任して、すなわち就職して3年目に会った本です。大学での仕事にもようやく慣れ、今後の自分を構築していくにあたり、貴重な一冊でした。

今井彰 著
**プロジェクトX
リーダーたちの言葉**

文藝春秋 刊

「オシムの言葉」は、すでに多くの人が読まれたと思います。サッカー日本代表監督を勤めたイビツァ・オシム氏。あの独特でユーモアあふれる言動は、選手やファンの心をわしづかみにしました。その言葉一つひとつが、彼の人生経験に由来するものだということがよくわかる一冊です。しかし今回紹介する「リーダーたちの言葉」は、それより前に発刊されたもの。NHKで放送された「プロジェクトX」の中で、リーダーとして活躍された18人の魂の言葉を活字化したものです。その中身を見てみると面白いことに、そのほとんどが本学の学科別にわけることができます。



プロジェクトリーダーとして活躍した18人の魂の言葉を活字化したもので同時にそれらが本学の学科別に分類できるのです

●工学部 エコデザイン学科/荒牧憲隆 准教授

すばらしいこと、「迷いはやる気の証拠」、「凡人でも力を合わせれば必ず成功できる」が印象深く、忘れられません。こういった言葉を胸に秘めつつ、日々を過ごすように努めています。

LOCAL AREA COOPERATION

地域との連携

山鹿市「さくら湯」再建基本計画を発表

山鹿市街地の中心部に建っている大規模複合ビル(プラザファイブ)の一部を解体、かつてその場所に建っていた木造の温泉建物「さくら湯」を再建する計画が進められています。この数年来、芸術学部デザイン学科・本間研究室と工学部建築学科・内丸研究室が、この「さくら湯」再建プロジェクトに関わってきました。現在、内丸研究室では、かつての「さくら湯」の復元および再建のための計画策定を進めています。江戸時代の建物をベースにして、明治以降に増築を繰り返した「さくら湯」は、規模・内容とも松山市の道後温泉に匹敵する建築です。また山鹿中心市街地の活性化の核となる建物として、その再建は山鹿市民の悲願でもありました。内丸研究室では、現存する写真や模型から復元図面と模型を作成、それをベースに現在の使用に耐えるよう変更を加えた計画案の作成を行っています。柱や梁の位置を変えず、かつての「さくら湯」の空間の特性を保持するという方針でつくられた計画模型を基に、山鹿市民と行政、本学によって構成される「さくら湯再生基本構想策定協議会(委員長/本間康夫・芸術学部デザイン学科教授)」で協議を進展。2009年10月7日、八千代座にて市民へ基本計画が発表されました。



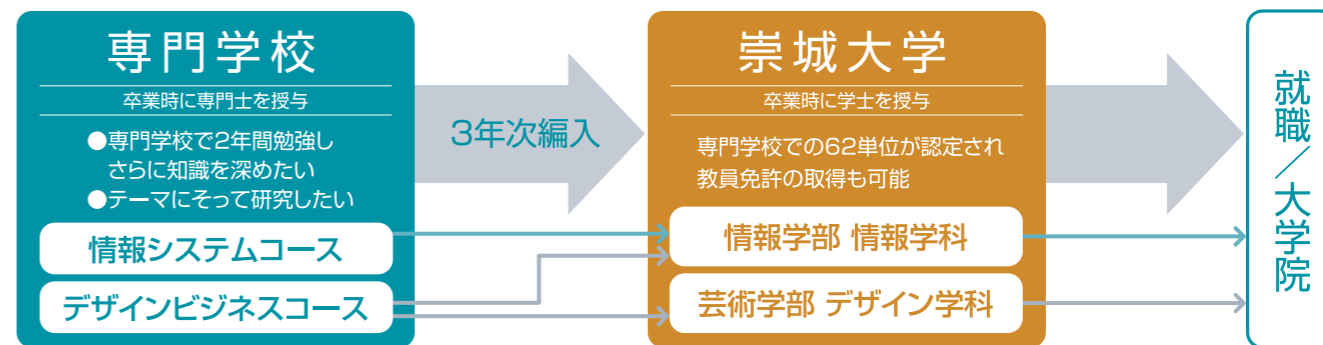
崇城大学「専門学校」からのお知らせ

SOJO COLLEGE INFORMATION

崇城大学・情報学部と芸術学部デザイン学科への 3年次編入制度が注目を集めています

今年度は前期編入試験で11名の学生が崇城大学への編入を希望しています。昨年度までは4名程度の編入希望でしたが、今年度は専門学校入学時から崇城大学への編入を視野に入れていた学生が多く、編入学生がふえることになりました。なお希望学生に「編入についての話を誰に聞きましたか」と尋ねたところ、約7割の学生は「高校の担任の先生や進路指導の先生から聞いていた」とのこと。高校の先生方にも編入学制度が伝わってきていると感じました。また大学への編入を意識して本校に入学した学生も半数以上いました。専門学校からの編入でよかったことは

「基本情報などの国家資格やコンピュータ関連の資格がたくさん取得できたこと」や「学費が安く済んだこと」、「2年間の大学生活で大学4年間の知識を得られ卒業できること」などでした。大学へ編入してからの期待としては「ソフトウェアについての研究やハードウェアの実験、サークル活動」などにあるようです。2010年度入学生は芸術学部デザイン学科への3年次編入も可能となり、大学との連携もさらに深くなりました。今後も大学との連携を強め、注目を集める編入制度への期待に応えていきます。



3月までオープンキャンパス実施中。詳細はホームページで!!

崇城大学 専門学校

〒860-0806 熊本市花畑町10番25号 TEL.096-323-1122

<http://www.sojo-c.ac.jp/> info@sojo-c.ac.jp